

◎特別座談会◎

「教職大学院」の設置で 日本の教育改革において 兵庫教育大学が果たすべき役割

平成19年4月の設置をめざして準備が進む「教職大学院」。梶田毅一学長、川本幸彦副学長、各コースの担当教員4人が、教職大学院の意義、コースの目標、さらに新設する大学院が兵庫教育大学にとって、日本の教育改革にとってどのような意味を持っているのかなどを語り合いました。



——最初に、学校教育の現状も踏まえながら、教職大学院の意義についてお尋ねします。

梶田 「教育は人なり」と言いますが、いつの時代も学校教育のカギを握るのは一にも二にも教員です。しかし、世の中が変わっていけば、教員の養成や研修のシステムも問直しさざるを得なくなります。教職大学院の構想が立ち上がったのには、大きく分けて3つの背景があります。



かじ た へい いち
梶田毅一学長

1つ目は、時代とともに学問がどんどん進歩して、子どもたちに教えるければならない事柄が増え、その内容も高度になったことです。2つ目は、家庭や地域の在り方が変わってきたことです。例えば、子どものしつけなど、今までなら家庭や地域に任せていたことまで学校が背負わなければいけなくなりました。3つ目は、社会全体が高学歴になり、保護者の信頼を得るためにも、教員には従来以上の学歴や研修歴が要求されるようになってきたことがあります。このように、現代の教員にはより高度な専門性が求められることから、専門職大学院の制度を活用した教職大学院の設置につながりました。既設大学院専攻の人材養成目的

が「学校教育に関する理論と実践についての研究能力を持ち、実践現場における教育の推進者となる教員の養成」であるのに対し、教職大学院では「学校現場において、実践力、応用力などの高度な専門性を身に付けた指導的教員および学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成」をめざします。

——では、兵庫教育大学の教職大学院の概要についてお聞きます。

川本 現在の大学院修士課程の入学生定員を300人から200人に減らして、定員100人の教職大学院を設置します。コースは「学校指導職コース」「授業実践リーダーコース」「心の教育実践コース」「小学校教員養成特別コース」の4つを設けます。

——各コースの詳細については後ほど、担当教員に話していただくとして、まずは総括的なことを聞かせてください。

川本 各コースの共通科目として、理論と事例研究の実践的なものを統合させた科目を設定します。現職教員と学部からのストレート院生の両方を受け入れるので、同じ名称で



かわ もと ゆき ひこ
川本幸彦副学長

【出席者】

梶田毅一学長

川本幸彦副学長

笠沙知章助教授（学校指導職コース）

岩田一彦教授（授業実践リーダーコース）

渡邊 満教授（心の教育実践コース）

千駄忠至教授（小学校教員養成特別コース）

【進行】

勝野眞吾理事・副学長

も内容を変える科目もあります。また、情報教育や人権教育といった大学独自で考えた科目もつくる予定です。選択科目はコースごとに特性に合ったものを用意し、実践開発研究の分野も設けます。学校現場での実習を重視するのも大きな特徴です。従来の大学院では実習にあまり時間を割きませんが、教職大学院では10単位、300時間以上の実習を課します。

——それでは各コースの目標や内容についての説明を。まず「学校指導職コース」から。

笹沙 将来、校長や教頭をめざす人、教育委員会の指導主事や管理主事に就く人など、学校を動かす立

場の人材を養成します。校長や教頭

頭に昇進するには、教職経験を積んだ人が試験を受けるのが一般的です

が、これからの学校の在り方を考えると、今までのような人選方法では

学校組織の運営は難しくなると予想されます。また、地方分権が進む現

在、行政は学校にさまざまな権限を移しつつあります。今までの校長な

ら、決められたことをきちんとこな

し、大過なく責任を果たすことが良しとされてきましたが、今後はどん

な学校をつくっていくかという具体的なビジョンを描ける能力が必要になります。そのような能力を養成する

ため、一定のトレーニングを用意しています。

——どのようなトレーニングでしょうか。

笹沙 最も重視するのはマネージメント能力です。教育行政や財政、法

制度の仕組み、カリキュラム編成のほか、危機管理などの領域を含みつ

つ、学校全体の運営の手法を講義や

演習、インターシンプを通して学びます。

梶田 今までは、普通の教員が辞令一本で教頭や校長になり、見よう見

まねでやってきた部分があります。しかし、校長が代われば学校はガラ

●授業実践リーダーコース

岩田一彦

社会系教育講座教授 (地理教育論・社会科授業論)。教職大学院への抱負:「院生自らが問題を発見し、興味と関心を持って研究を進められるよう支援していきたい」



りと変わります。学校組織が健全かつ効果的に運営されるかどうかは校長の手腕にかかっています。このコースのトレーニングは、これからの日本の学校教育において有意義な試みになると思います。

——次に「授業実践リーダーコース」

の説明をお願いします。

岩田 授業実践リーダーコースのねらいは、学校現場のミドルリーダーと高度な技能を持った新任教員の養成です。現在ほとんどの学校でも研究

活動に取り組んでおり、優秀なリーダーのいる学校は研究が深まっています

ですが、リーダーが弱いといつまでも同じ所をぐるぐる回っているという状況です。研究推進のリーダーシップをとれる人材を育てたいと考

えています。また、授業実践や教材の開発、授業設計などの研究も推進していきます。

波邊 ミドルリーダーには若手教員の指導、育成も求められますね。

岩田 おっしゃる通りです。現在、教員の養成や研修におけるメンター

シップをどのようにつくりあげていくのかを考えているところです。また、このコースには夜間コースも開設し、

現職教員が教育委員会からの派遣でなくても、自発的に通えるようになっています。

梶田 授業の達人をつくりたいですよ。現在、型にはめた授業のトレーニングが常態化していますが、本

来、授業とは臨機応変に行うもの。子どもが違えば、授業の展開の仕

方も違うし、教科や課題によっても違ってきます。私の言う達人とは、

いかなる課題においても、子どもの内面世界の動きを見て、そこに届く

ような呼びかけや働きかけができる教員を指します。

岩田 マスコミでも取り上げられている教育技術の「スーパーティーチャー」

も必要ですが、私たちとしては、内容の高度なものを教育現場に持ち込

み、それを子どもたちのニーズに合った

たかたちで、内面の発達につなげて教育できる人材を養成したいと考え

ています。

川本 この2、3年のうちに団塊の世代が退職を迎えますが、学校現場

では彼らが抜けた後、誰がリーダーの役割を果たすのかが見えていない

のが現状です。各地の教育委員会では今後、計画的にリーダー的な人材

を養成していく必要性を強く意識しており、授業実践リーダーコースに

は大きな期待が寄せられています。

岩田 ぜひとも期待に応えたいですね。

千駄 最近の小学校の授業を見てみると、自身の授業を十分に分析でき

ている教員が少ないように感じます。例えば、どの教員も流行の学習

カードを使っています。学習カードを否定するつもりはありませんが、

右に倣えではなく、もつと子どもに即した、子どもに合った授業をつく

ろうという意欲があつてもいいのでは

と思うんですね。このコースが養成をめざす、授業の設計、分析、評価

を一貫してできる人材が増えれば、それが学校や子どもを変えていき、

教員たちの凝集性を高めることにもつながるのではないかと思います。

岩田 学習カードは広く使われていますが、そこに記載された内容をどう

分析するかという緻密な方法論についてはまだまだ検討の余地があり

●学校指導職コース

笹沙知章

教育経営講座助教授
専門は教育行政学、教育財政学。教職大学院への抱負:「学校の自律性や特色ある学校づくりを促進していく上で有用な知見を得られる研究を進めていきたい」



ます。この10年間、私自身も附属小学校と共同で方法論の研究に取り組んできましたが、学習内容の分析に関しては十分に踏み込めていません。附属小学校の教員との研究も続けながら、コースの院生とともにデータの蓄積に励みたいと考えています。

——続いて「心の教育実践コース」の説明をお願いします。

渡邊 心の教育は、学校教育の基本的な目標に位置付けられる重要な領域ですが、漠然としている面もあり、その取り組みは抽象的なものとどまっています。そこで、学校現場や社会、家庭で起きている具体的な問題や課題を基盤にして、それらを解決するための取り組みを実践的に担っていく教員を育てたいと考えています。授業内容は、1道徳教育、2進路指導、3生徒指導と教育相談、4学級経営という、4本柱で考えています。また、地域での子どもにかかわるさまざまな活動、

家庭でのしつけなど、学校教育と社会教育や家庭教育とのつながりにも焦点を当てて、学校、地域、家庭の3者の連携の中で心の教育が行えるようにカリキュラムを編成します。

岩田 学校の教員も連携して、カウンセリング技能を指導し、教育相談に関する能力の向上を図ります。

渡邊 「心の教育実践研究」という3段階に分かれた科目を設置します。

岩田 学級崩壊など深刻な問題に対応するような科目は設定されるのですか。

「心の教育実践研究」は基本的な実習として、学校内での取り組みや、子どもと教員とのかかわりについて指導します。「Ⅱ」は心の教育にかか

渡邊 学級崩壊や子ども同士の人間関係のトラブルなどは最も重要な課題と位置付けています。それらに対応していくために、学級運営について指導力を発揮できる教員に育てていきたいと考えています。また、児童の人間関係や社会的なかわりをはぐくむには、子どもたち自身が積極的に取り組むことが必要であり、院生にはそのためのプログラムを開発できる力量を身に付けてもらいます。

●心の教育実践コース



渡邊 満

生徒指導講座教授

専門は教育哲学、教育思想史、道徳教育。教職大学院への抱負：「子どもたちが大人になる上で達成しなければならぬ発達上の諸課題にしっかりと取り組める授業（道徳）ができる教員を育成したい」

●小学校教員養成特別コース



千駄 忠至

生活・健康系教育講座（保健体育分野）教授
専門は体育学（体育心理学）。教職大学院への抱負：「応用力・実践力のある教員の育成をめざしたい」

千駄 小学校教員養成特別コースでは、小学校の教員免許状を持つていない学部卒業生や社会人を受け入れる性を生かして、かつ確かな力を持った小学校教員を養成したいと考えています。その力とは主に2つの能力を指します。まず、自分の授業を評価し、次の授業につなげていく力。次に、子どもの成長像を描き、そこへ到達させるにはどのような授業が必要なのかを考える発想力です。

——このコースだけ長期在学制度を活用して修学期間が3年間です。

千駄 教員免許状を持たない人が教壇に立てるまでには、相応の時間が必要で、カリキュラムは5つの柱で構成します。1つ目は学級運営。学級は学校生活の基盤であり、子どもの成長や発達にかかわる重要な事柄です。2つ目は授業の構成、展開、分析、評価に関する基礎知識。3つ目は生徒指導、進路指導。子どもたちの価値観の多様化が進む中、教員

最後に「小学校教員養成特別コース」の説明をお願いします。

ています。

はどのように対応していけばいいかを考えます。また、パソコンなどの情報機器の効率的な活用方法についても触れたいと思います。4つ目は教育実践研究の手法について。5つ目は評価の内容指導。院生が学部や企業などで得た知識を核にしなが、自分の評価の専門性の幅と深さを身に付けさせたいと考えています。

得意教科をつくることで、他教科の授業のノウハウを身に付けようとする意欲も高まってくると考えています。

——教職大学院は豊富な実習時間が特長の一つですが、特にこのコースでは実習に多くの時間を割り当てるそうですね。

千駄 他コースの10単位に対し、小学校教員養成特別コースは14単位です。選択科目のインターンシップも加えると16単位になります。できるだけ子どもたちと触れ、現場において自分は何をすべきか、何が必要なのかを経験的に学ばせたいと考え

梶田 中央教育審議会はもとより、さまざまな方面から、これまで以上に多様な人材を教員として採用して、教育界を活性化し、豊かなものにしていくという意見が出ています。そういう意味で、このコースには現代的な使命があると思いますね。

——今年6月の設置認可申請に向けて、現在の進捗状況はいかがでしょう。また、今後はどのようなステップを踏んでいくのですか。

川本 教育課程に関しては昨夏から議論を重ねており、現在は最終段階に入っています。実習の連携協力校の確保については、設置認可申請の時点で協定を結んでおかなければいけないので、昨秋から各地の教育委員会に出向き、教職大学院や実習の内容などの説明をしています。入試や外部評価、教職大学院を含めた大学院全体の運営については、3月には方針を決める予定です。

竺沙 兵庫教育大学の「大学と教育

現場の協働的教師教育プログラム」が今年度の文部科学省の教員養成GIPに採択され、昨年11月、大学と教育現場を結びエゾンオフィスが設置されました。教職大学院の運営においても、現場の教員の参画が不可欠だと考えますが。

川本 教職大学院には基本的に4割の実務家教員を入れることが義務付けられています。専任教員の人は選ばれませんが、専門的な授業には現場の教員にも非常勤で参画していただきたいと考えています。そのために現場にどのような教員がおられるのかを調査し、人材のデータバンクの作成を予定しています。また、すでに始動している各コースのカリキュラム授業開発チームにも現場の教員に加わっていただき、理論と実践を融合させた授業科目の開発をめざしているところです。

岩田 連携協力校はどのようにして選定するのですか。
川本 大学から一方的に協力を依頼するのではなく、事前にその学校

が抱えている課題をリサーチして、それが大学の必要とするテーマとマッチングするかどうかを考えなくてはなりません。連携協力校は2年ぐらいいのサイクルで代えていく予定なので、かなりの数の学校を確保する必要があります。

——それでは締めくくりとして、梶田学長にお尋ねします。教職大学院の設置は兵庫教育大学にとって、日本の教育界にとってどのような可能性を切り開くのでしょうか。

梶田 教職大学院の設置は、兵庫教育大学の歴史においても一時代を築く取り組みだと思います。そもそも、兵庫教育大学は昭和53年に日本の新しい教員養成の基幹大学として創設されました。その理念に基づいて、兵庫教育大学は教職大学院という新しい取り組みの先駆的なモデルとなり、全国の大学に広めていかなければいけないと考えています。昨年、中央教育審議会から「信頼される質の高い教師の育成」が課題とし

て示されました。大学には強い情熱と確かな力量を持ち、総合的な人間力のある教員を養成することが求められ、現在教壇に立っている教員もそれに向かって自分を磨いていかなければならない。そういったことを行う場の一つが教職大学院です。教職大学院は、日本の教育改革の大きな柱の一つとして位置付けられていることも念頭に置きながら、設置に向けて総力を挙げて取り組んでいきたいと考えています。

——昨年の就任以来、梶田学長は兵庫教育大学を「日本の教育界のメッカ」に高めることを目標に掲げてこられました。教職大学院の設置はまさにその第一歩になると思います。今日はどうもありがとうございました。



◎進行
梶田 眞吾 理事・副学長

◎特別座談会

※教員養成GIP：文部科学省が平成15年度から始めた事業で、正式名称は「大学大学院における教員養成推進プログラム」。大学や大学院修士課程など、義務教育段階の教員養成機関において、資質の高い教員を養成するための教育内容・方法の開発・充実などを行う。特色ある優れた教育プロジェクトを選定し、重点的な財政支援を行うもの。兵庫教育大学では17年度の「大学と教育現場の協働的教師教育プログラム」が採択されました。